

展覧会

角川映画の40年

2016.7.26(火) - 10.30(日)

Forty Years of Kadokawa Pictures

東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室(7階)



『犬神家の一族』『人間の証明』『セーラー服と機関銃』『時をかける少女』……

日本映画を席卷した大旋風

映画は、映画会社が作るもの——40年前、そんな常識に真っ向から挑み、瞬く間に日本映画の勢力地図を塗り替えたのが《角川映画》でした。出版社の角川書店を母体に創始された《角川映画》は、巨匠市川崑監督を迎えた『犬神家の一族』(1976年)で表舞台に登場、横溝正史の原作もベストセラーに押し上げました。その後もミステリーやハードボイルド小説を次々と映画化し、角川春樹社長のもと、映画と原作書、さらに主題歌も含めたメディアミックスの広報戦略によって、『人間の証明』(1977年)、『復活の日』(1980年)などヒット作を連打しました。1980年代に入ると『セーラー服と機関銃』(1981年)、『時をかける少女』(1983年)などを発表して薬師丸ひろ子、原田知世、渡辺典子などのアイドル女優を輩出、さらにはアニメーション映画にも進出して若い世代を映画館に呼び寄せます。1990年代中期からは新たに角川歴彦社長のもとで再生、『失樂園』(1997年)や『リング』(1998年)など数々の話題作の中心となって、盛んな映画作りを今も続けています。

本展覧会「角川映画の40年」は、日本社会に国民的なセンセーションをもたらした《角川映画》の足跡を、当時の華やかな宣伝資料などを通じて振り返ります。思い出深い作品と再会を果たすとともに、現代の日本映画を再考するきっかけにいただければ幸いです。



関連企画

角川映画祭

7月30日(土)~9月2日(金)

角川映画の主要作品(1976年~1988年)を一挙上映!

角川シネマ新宿 (Tel. 03-5361-7878)

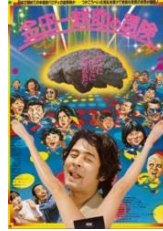
公式HP <http://cinemakadokawa.jp/kadokawaeigasai/>

配給: KADOKAWA

■ 展覧会の構成 * 出品数：約 180 点

第 1 章 大旋風一角川映画の誕生

1976 年、角川春樹社長率いる角川春樹事務所が世に問うた『犬神家の一族』は成功を収め、忘れられていた巨匠横溝正史を国民的ミステリー作家に押し上げました。以降も、映画・書籍・主題歌などのメディアミックスにより、テレビコマーシャルも用いた型破りの宣伝戦略を採用、撮影所を持たないままで日本映画界の一角を占めるようになりました。その後も森村誠一、高木彬光といった作家に光を当て、新スター松田優作の起用でハードボイルドの路線にも舵を切りながら、創立以前からの巨大企画、小松左京原作の『復活の日』に挑みます。



7



8



10



9

第 2 章 “角川三人娘”登場—アイドル映画の時代

『野性の証明』(1978 年) でデビューを飾った薬師丸ひろ子の人気の高まりとともに、《角川映画》はアイドル映画路線に活路を見出し、相米慎二監督『セーラー服と機関銃』(1981 年) が空前の成功を収めると、さらに大々的なオーディションを通じて発掘された原田知世と渡辺典子も看板女優となり、薬師丸とあわせて“角川三人娘”と呼ばれました。出版とのタイアップはかつてほど強調されなくなり、大林のほかにも当時の新人監督崔洋一・澤井信一郎・根岸吉太郎・井筒和幸・森田芳光らが起用されるなど、映画自体に重心が置かれるようになりました。

第 3 章 アニメーションと超大作

1980 年代に入ると、日本映画のヒット作がアイドル映画とアニメーションに偏るようになったと分析した《角川映画》は、アニメーション映画の製作を模索しました。平井和正原作の『幻魔大戦』以降、アニメーションも《角川映画》の一路線として確立してゆきました。また、『汚れた英雄』で監督に進出した角川春樹社長は『キャバレー』(1986 年) でミュージカル映画に挑戦、やがて大規模なカナダ・ロケーションによる壮大な戦国絵巻『天と地と』(1990 年) に取り組みます。



11



12

第 4 章 再生、そして現代へ

1990 年代中期、《角川映画》は新たに角川歴彦社長のもとで再生、『失楽園』(1997 年) や『リング』(1998 年) など数々の話題作を率いる存在となります。2002 年には大映の事業譲渡を受けて旧大映東京撮影所を所有することとなり、複数の出資者による「製作委員会」方式の中心企業として、現在も盛んな映画作りを続けています。



13



14

トークイベント

《角川映画》一宣伝の現場から

日程：8月20日（土）

講師：野村正昭氏

（映画評論家、元《角川映画》宣伝担当）

《角川映画》はミステリ映画をどう変えたか

日程：9月24日（土）

講師：中川右介氏

（評論家・編集者、「角川映画 1976-1986」著者）

※時間・場所など詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

※申込不要、参加無料（展示室内で開催の場合は、観覧券が必要です）。

※当日の企画上映チケットの半券をご提示いただくと、割引が適用されます。

崔洋一監督来訪！上映&トーク

《角川映画》で4本の作品を監督した崔洋一監督をお招きしてお話を伺います。

10月29日（土）

2:00pm 『友よ、静かに眠れ』（1985年）上映 [103分]

3:45pm 崔洋一監督トーク

「私の《角川映画》時代」

※上映をご覧になった方はそのままトークに参加できます（トークのみの参加もできます）。

会場：小ホール

定員：151名（各回入替制）

発券：地下1階受付

料金：一般 520円／高校・大学生・シニア 310円／小・中学生 100円

／障害者（付添者は原則1名まで）、キャンパスメンバーズは無料

展覧会名	角川映画の40年 Forty Years of Kadokawa Pictures
	主催：東京国立近代美術館フィルムセンター 協力：KADOKAWA
会場	東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室（7階）
会期	2016年7月26日（火）—10月30日（日）
休館日	月曜日および9月5日（月）—9日（金）
開室時間	午前11時—午後6時30分（入室は午後6時まで）
料金	一般 210円（100円）／大学生・シニア 70円（40円）／高校生以下及び18歳未満、障害者（付添者は原則1名まで）、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料 * 料金は常設の「NFCコレクションでみる 日本映画の歴史」の入場料を含みます。 * （ ）内は20名以上の団体料金です。 * 学生、シニア（65歳以上）、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示ください。 * フィルムセンターの上映企画をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目下車、出口7より徒歩5分 JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分
お問い合わせ	03-5777-8600（ハローダイヤル）
当企画HP	http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/kadokawa/

広報用画像&読者プレゼント招待券申込書 「角川映画の40年」

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

発行・放送予定日(日時)： _____ 年 月 日 _____ : _____ ~ _____ :

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____

* 広報用画像は本プレスリリースに掲載されている全ての画像です。ご依頼の際は画像右下の番号をご参照の上、貸出を希望されるデータの口にチェックをつけてください

* ご使用の際はすべての画像に右記のクレジットが必要となります → 

①	『犬神家の一族』(1976年、市川崑監督) ポスター
②	森村誠一『人間の証明』単行本(1976年) / 角川文化振興財団所蔵
③	『人間の証明』(1977年、佐藤純彌監督) シナリオ
④	森村誠一『野性の証明』単行本(1977年) / 角川文化振興財団所蔵
⑤	『野性の証明』(1978年、佐藤純彌監督) シナリオ
⑥	《角川三人娘》薬師丸ひろ子・原田知世・渡辺典子ポスター(『セーラー服と機関銃 完璧版』1982年、 『天国にいちばん近い島』1984年、『晴れ、ときどき殺人』1984年)
⑦	『金田一耕助の冒険』(1979年、大林宣彦監督) ポスター
⑧	『野獣死すべし』(1980年、村川透監督) ポスター
⑨	角川書店の雑誌「バラエティ」
⑩	『魔界転生』(1981年、深作欣二監督) ポスター
⑪	『幻魔大戦』(1983年、りんたろう監督) ポスター
⑫	『少年ケニヤ』(1984年、大林宣彦監督) パンフレット
⑬	『リング』(1998年、中田秀夫監督) ポスター
⑭	『死国』(1999年、長崎俊一監督) ポスター
画像データ貸出希望日時	月 日 時頃までに希望
読者プレゼント招待券	組 名(合計 枚) 希望します

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙(誌)は、1部、事業推進室宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。* 画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。* 掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

【お問合せ】

東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室 広報担当 白鳥

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp